
第三の男

yukilink

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

第三の男

【Nコード】

N1030D

【作者名】

yukilink

【あらすじ】

俺とあいつの間に現れた男。どうする俺。

おいおい、そろそろ起きる時間じゃねえの？

しょうがない起こしてやるか。

俺はあいつの寝顔にそっとキスをした。

「やめて〜」

甘ったるい声で寝返りをする。

カーテンをすり抜けまぶしい光が差し込みサイドテーブルの上のペ
ットボトルの水を
キラキラと照らした。

2

俺は毛布をひっぱりあいつの顔にキスの嵐。

「もお〜、やめてったらあ〜もうちょっと寝かせてよ〜」

そう言っただけ俺をベッドの中に無理やり引きずり込んだ。

心地よい暖かさなあいつの香りが俺を包んだ。このまま。。。この
まま俺も眠りたい。

そんな気持と戦いながら俺はあいつの頬にキスをした。

「わかったよあ〜起きるよっ」

そう言ってあいつは布団から立ち上がり背伸びをした。

サイドテーブルのペットボトルのふたをあけてゴクゴクと勢いよく飲んだ。

それからチラッと時計を見て

「よっしゃ、遅刻はまぬがれた。あんがと健太」

ベッドの上に座っている俺にキスをした。俺はほこらしげな顔をしてみせた。

パジャマを脱いでスーツに着替えるあいつの体はペットボトルとは比べ物にならないくらいキラキラしていた。

俺はあいつの体をじっと見つめているとあいつが脱ぎ捨てたパジャマが目の前を覆った。

温かさが残るそいつを振り払うとあいつの姿はもうなかった。

俺は部屋を出てキッチンに向かった。

キッチンでは俺の朝食を用意するあいつがいた。

「今日はクリスマスだから早く帰るね」

そう言ってキッチンを出て行った。

俺は用意された朝食をたいらげソファーに座り今日一日何をして過

「ごそうか考えていた。

しばらくしてキッチンと廊下をつなぐドアが開き、化粧を終えすっかりOLに変身した
あいつが顔だけ出した。

「行ってくるね。プレゼント買ってくるから期待して待ってて」

軽くウインクをしてあいつは出て行った。

腹が減り、だいぶ薄暗くなってきた。

そろそろあいつが帰ってくる頃だ。

——ガチャ。

俺は玄関に走った。

「ただいま！ 健太」

俺にキスをした。そして後ろを振り返り

「どつぞ。」

玄関のドアがいったいに開くと男が一人立っていた。

誰だよ、こいつ？

男はしゃがんで

「はじめまして。俺、たつや。よろしく」

そう言っただけに手を差し出した。

俺はそいつの手のひらを思い切り噛んでやった。鉄くさい温かい液体が

口の中に流れてきた。

「こら、健太！」

あいつが叫んだ。

いつもそうしてきた。

第一の男はその瞬間俺を思い切り殴った。

第二の男は情けない声であいつに助けを求めた。

二人とも二度とうちに來ることはなかった。

こいつはどうする？

男は一瞬ビクッとしたがそのまま俺をじっと見つめていた。

「ごめん、ビックリしたのか。いきなり来て悪かったな。」

噛まれた手を気にすることなく申し訳なさそうな顔で言った。

俺はそいつの手から口を離し傷をなめた。

「ちょっと待っててね」

あいつが部屋の奥へ走っていった。

「心配すんな、真樹を取ったりしないから」

戻ってきたあいつは消毒液と包帯を持っていた。

「大丈夫？ごめんね、たつや」

少し泣きそうな顔で手当てをするあいつに俺は言ってやった。

「ワンワン」

いい男を見つけたな。と。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1030d/>

第三の男

2010年10月31日04時54分発行